

TTC 提案山行実施記録表 2017年10月10日 報告者: M.H

山行名	木曾御嶽山 (摩利支天山) (日本百名山) [2959m 長野県]					
実施日	平成29年10月8日(日)~10月9日(月) 1泊2日 マイカー利用					
天候/参加人員	天候: 晴れ 参加者: 申込10名/実施9名(男5名/女4名)					
パートスタッフ	CL/計画: 、SL、 会計:、 救護、 写真					
参加メンバー	省略					
費用 一人;17,400円	17,400円(交通費¥7,400+宿泊費¥9,500+通信費・カンパ金等¥1590) 交通費 マイカー使用料(10円x290km×往復×2台)¥1,600、運転者謝礼(@5000×2日×2台)¥20,000 燃料代(@130x(290x2)/8×2台)¥18,850、高速料金(¥3640x2×2台)¥14,560、/8人⇒一人当たり交通費¥7,334、 宿泊代 @9,500x9人=カンパ宿泊代計¥85,500、入浴代@500×9=4,500 通信費¥1000 カンパ金590円 一人当り@集金(17,400x9)¥156,600-費用合計¥156,010=残金(カンパ金)¥590					
所要時間	10/08(日)			10/09(月)		
	歩行時間	休憩時間	行動時間	歩行時間	休憩時間	行動時間
ガイドブック	5:30					
計画	6:00					
実行	5:23	1:32	6:55	3:49	1:06	4:55
コースタイム						
10月8日(日) 0:39 厚木市内==圏央厚木IC==談合坂SA==伊那IC==濁河温泉==小坂口登山口-----7合目----- 5:00 5:15 8:15 10:00 10:20 (途中昼食・休憩20分) 11:19 (途中休憩15分) 1:19 1:16 0:05 1:14 0:50 -----8合目-----飛驒山頂上-----五の池小屋 -----摩利支天山頂上-----五の池小屋(泊) 12:53 (途中休憩16分) 14:25 14:30/15:00 16:14~16:25 17:15						
10月9日(月) 1:15 1:15 1:19 五の池小屋-----継子岳一周-----のぞき岩避難小屋-----濁河温泉湯ノ谷荘==伊那IC==圏央厚木IC 6:15 三の池一周 9:15~9:25 (途中休憩・昼食0:26) 11:10~12:00 14:30 20:25 7:30~8:00 厚木市内 20:45						
コースの概要、特記事項、反省事項等						
当初の計画を、天候の関係で1日延期し、8、9日に実施することにした。 早朝、2台のマイカーで厚木を出発し、談合坂で合流後、伊那ICに向けて車を走らせた。出発が早かったこともあり、順調に高速道路を走り、濁河温泉に到着した。駐車場を探しながら車を停車させたところ、近くの温泉宿から女将さんが出てきて、下山後、温泉に入浴するなら駐車することができるかと説明してくれたので、その「湯の谷荘」に車を止め、登山口に向かった。すぐ上に40台止められる市営駐車場があったが、すでに満車状態だったので、女将さんの申し出はありがたかった。						

小坂口登山口で準備体操を済ませ、歩き始めるとすぐにつり橋があり、下を流れる溪流は紅葉した木々で縁取られていた。神社の鳥居をくぐったところに、七福神の石像が並んでいて、神社の七福神とはとても珍しいと思った。歩くこと20分足らずで、ベンチのある休憩地点に着き、そこで、早い昼食を摂った。ネットの情報によると、2000メートル付近の紅葉が見ごろと聞いていたが、その通りで、目の前に現れる紅葉を存分に楽しみながら飛騨山頂上を目指した。途中、ジョーズ岩やカエル岩などと命名された岩に出会い、確かによく似ていると感心した。湯ノ花峠の手前では、硫黄のにおいが漂い、そのネーミングもぴったりだと思った。また、所要所に半鐘が設置されていたので、クマが出没することが分かり、SKEさんがクマ除け鈴を鳴らしながら歩いてくれた。登山道は木道が設置されている場所が多かったが、相当の年月を経ており、崩れ落ちたり、簡易修理されたりしている箇所が目立った。雨で濡れていたこともあり、慎重に歩を進めた。

途中曇ってきて周りの景色が見えず、霧も出てきたりしたこともあって心配したが、2300メートルを超える頃には視界が開け、御嶽山や摩利支天山が望めるようになった。

出発してから4時間ほどで小屋に着き、手続きをしてから、その日のうちに摩利支天山を目指すことにした。ところが、いざ出発しようという時に強風と視界を遮る霧に見舞われ、あまりの寒さに防寒着を着込む状況に陥った。翌日に延期しようか散々迷ったが、OKさんの「もう一度晴れ間が来る。」という言葉信じ、出発することにした。登り始めてしばらくすると、OKさんの言ったとおり、霧が晴れてきて周りを見渡すことができるようになった。雲海の上に顔を出した富士山や乗鞍山、穂高山、槍ヶ岳などを眺めることもでき、嬉しい限りだった。摩利支天山までは、1時間14分で着き、SRさんの百名山完登を皆で祝った。クラッカーを鳴らし、3種類の横断幕をかわるがわる掲げて写真に納まったSRさんの満足げな表情が印象的だった。その場に居合わせた皆も、百名山完登と一緒に祝えることの喜びを感じることができた。

しかし、3年前の噴火を思い起こさせる二の池本館、新館を一望できる場所で、SRさんが用意してくれた献花を岩の上に置き、全員で黙とうを捧げた時には、犠牲者の苦しみ、悲しみに思わず涙した。荒涼とした火口付近と点々と散らばる大小さまざまな岩を見ながら、当時の噴火に思いを馳せ、自然の脅威を改めて痛感した瞬間だった。

その後、ブロッケン現象で出現した、富士山の形をした大きな山を見下ろしながら下山した。小屋の近くでは、雲が滝のように峠を越える、いわゆる滝雲も見られ、歓声が上がった。小屋に戻り、夕食までの時間でシャンパンを抜いて乾杯した。あっという間に2本のシャンペンとワイン一本が空になり、雲間に消えてゆく夕日の美しさにも感動しながら、気持ちが高揚していくのを感じた。夕食後は、階段を上った部屋で歓談し、8時ごろ眠りについた。一つの布団に二人が寝るという、窮屈な状況だったが、その分、いきれで寒さは感じなかった。

翌日も素晴らしい青空だったが、風が強かったので、前日に摩利支天山に登頂できて本当に良かったと皆で言い合った。時間的に余裕があることから、継子岳周回組と三の池周回組に分かれ、6時15分からそれぞれ行動を開始した。強風ではあったが、よく晴れていたため、素晴らしい景色を楽しみながらのハイキングとなった。ほんの一瞬だったが、ライチョウの姿も見られ、こんなに晴れた日にもライチョウが姿を現すことが分かった。

二手に分かれたハイキング合流後、8時に小屋を出発し、濁河温泉を目指した。前日に昼食を摂った場所で、同様に早い昼食を摂った。濁河温泉には食事を摂れるところがないこともあり、小屋で頼んだ弁当や持参したパン等の昼食となった。

湯の谷荘に着き、かけ流しの温泉に浸かって疲れを取って、さっぱりした気分ですらに乗った。途中、「木曾福島高原・道の駅」に寄り、開田高原名物のそばに舌鼓を打ったり、地元の野菜等を購入したりしながら伊那ICに向かった。高速道路は自然渋滞に事故渋滞も加わり、大渋滞が発生していた。いまだかつて経験したことがないほどの渋滞で、2時半ごろに高速に入り、圏央厚木ICに着いたのが、8時半ごろであった。6時間という長時間、代わるがわりとは言え、運転を続けてくださったSKYさん、HHさん、SKEさん、KSさんには、心から「本当にお疲れ様でした。」と言いたい。

今回は、天気に恵まれ、SRさんが百名山完登を果たすことができたことが何より嬉しかった。また、「御嶽山の霊峰に慰霊も兼ねて登り、自然に対する畏敬の念を抱き。」という目的も達成できたように思う。

参加の皆様のおかげで、無事御嶽山山行を終えることができ、本当に感謝しています。ありがとうございました。